

《国際戦略拠点キングスカイフロントと、トビハゼ》

世界の玄関、羽田空港と多摩川を隔てた川崎市に、国際戦略拠点キングスカイフロント（注1）の整備が進んでいます。名前は、**Kawasaki Innovation Gateway**の頭文字をとり、K I N Gと名付けられました。オリンピックに向け、羽田空港と繋がる道路も建設されます。

そもそも、大田区の羽田空港とスカイフロント地区は、200年前の1815年（文化12）、多摩川デルタに開墾された土地です。鈴木弥五右衛門が開墾したので、地名は鈴木新田といいました。

明治末期の大洪水により、東京府と神奈川県境界を整理する必要に迫られ、1912年（明治45）多摩川右岸の鈴木新田が神奈川県に編入されたものです。

その後、1919年（大正8）に着手された多摩川の改修工事によって、下流域に現在の河道が形状されます。そして、川沿いの川崎市側に、1938年（昭和13）いすゞ自動車（注2）が川崎工場を造ります。その工場跡地が、ライフサイエンス・環境分野の研究開発から新産業を創出するイノベーション拠点として蘇るのです。

この羽田一殿町あたりの多摩川河口域は、自然豊かで生態系に恵まれ、河川環境管理計画では、船舶航行空間のほか、生態系保持空間、自然系機能複合空間などが設定されています。（注3）川の中に、ねずみ島と呼ばれる中州ができていて、改修工事の図面と照らし合わせると、そこは川崎側の畑だったところ。川には、アシが茂り、自然豊かな空間が広がります。

なんと、そこにトビハゼが生息しているとのこと。若い頃は聞いたことがないので、江戸川河口周辺のトビハゼが移り住んできたのか知らん。（注4）とすると、多摩川にとっては外来種？ 多摩川は、カワラノギクなど絶滅危惧種が多いのですが、また一種増えたことになります。船から、ホエールウォッチングならぬトビハゼウォッチングができるといいですね。

工場跡地の再開発では、大川端リバーシティ21や、みなとみらい21があり、産業構造の変化に対応し、東京メガシティに新たな息吹を吹き込み、都市を更新しています。（注5）キングスカイフロントは、外国とも往来しやすいことから、世界から優秀な頭脳が集積・定住してくるでしょう。そして、永続する自然の営みを目の前にして、グローバルになった社会経済を、持続可能なものへとイノベ

ーションしていく拠点になってほしいと考えます。(なお高水敷の不法占用者は、退去していただかねばならないことを付記しておきます。)

注1：キングスカイフロント地区は、国家戦略特区、国際戦略総合特区になっており、特別償却、所得税控除・投資税額控除等の各種税特典が付与されているほか、財政支援、金融支援がなされます。

注2：いすゞ自動車は、現存する日本の自動車メーカーでは最古の企業であり、現在、トラックやバスを製造し、またディーゼルエンジンの製造で世界有数の企業です。石川島造船所（現IHI）の自動車部門と、東京瓦斯電気工業（現東京ガス）の自動車部門がルーツです。

1937年（昭和12）に創設。この系列から派生して、日産自動車、日野自動車が誕生しています。1937年（昭和12）は、トヨタ自動車が創設された年でもあります。

注3：多摩川は、年間2000万人の人が利用するため、自然環境の保全や空間の利用に関し、たびたび衝突紛争が発生します。この衝突紛争を回避するため、建設省京浜工事事務所（現国土交通省京浜河川事務所）と住民・市民が対話を重ね、多摩川河川環境管理計画が誕生しました。現在は、その計画が、河川整備計画策定時に充実され、高水敷、水面、水際に関し、空間の機能が設定されて整備や維持管理がなされています。

注4：トビハゼは、鮎と同じく東アジア特有の魚です。国の絶滅危惧種に指定されています。江戸川放水路河口に生息しており、国土交通省江戸川河川事務所は、河川工事にあたり専門学識者の指導を受け、その生態系の保全に成功しています。

注5：大川端リバーシティ21は、石川島造船所跡地が、ウォーターフロントの高層マンション街として生まれ変わったもの。みなとみらい21は、三菱重工業横浜造船所跡が、オフィス街に生まれ変わったもの。

写真は、①キングスカイフロン紹介写真（キングスカイフロントHPより）、②多摩川改修工事平面図（昭和10年10月(1935) 内務省東京土木出張所 土木学会図書館所蔵）に鈴木新田エリアなどの概略位置を細見が加筆

①



②

